



児童らは自分たちのメッセージが書き込まれた桁の架設を見守った—28日午前、都内で

小学生招き橋梁架設現場見学会

オリエンタル白石は28日、東京都新宿区と豊島区で施工中の「神田川橋梁(仮称)桁製作・架設工事(28六一環4目白台)」の現場に新宿区立戸塚第一小学校3年生の児童約70人を招き、見学会を開いた。公共工事の効果と必要性を広く周知するとともに、建設業の仕事に触れてもらい、担い手の確保につなげるのが

オリエンタル白石

狙い。児童らは大型クレーンで橋桁を架けるダイナミックな作業を間近で見学した。環状第4号線の整備のため、橋長19・8m、全幅22・8mの橋を神田川に架ける工事で、東京都建設局が進める「建設業の魅力発信モデル工事」の試行現場。

発注者の建設局第六建設事務所工事課道路工事担当の小島圭一課長代理とオリエンタル白石神田川橋梁作業所の野口宏現場代理人兼監理技術者が、最初に工事の概要や使用するクレーンなどの特徴をクイズを交えながら紹介した。主桁は1本15トンのPC鋼材を使用した工場生産のコンクリート製。児童らは白や赤、青、黄、緑など色とりどりのチョークを使い、桁の上や横に、「この橋必ず渡るよ」「早く丈夫な橋になってね」などのメッセージを自分の名

前とともに書き込んだ。得意の絵を描く児童もいた。

その後、クレーンで架設する作業が始まり、自分の文字や絵を見つけた、歓声を上げる児童が相次いだ。作業完了時には拍手も起こった。

主桁は計30本で、1日8本のペースで架設するという。工事の進捗率は約40%で、18年2月の完成を目指す。30日には豊島区立高南小学校の1年生を対象に見学会を開く予定だ。